

音楽科

鏡 千佳子

1. ESD の取り組みにあたって

今日、新聞やニュース、テレビ番組など、いたるところで ESD という言葉を耳にするようになった。今年度より本校でも ESD の研究に取り組むこととなり、音楽科がどのように ESD に関わっているのかを考えてみた。音楽は世界の国々やどの地域にもあり、自分の身近なところにもあふれている。どの楽曲をどのように扱うか、今まで行ってきた授業実践を ESD の視点から捉え直し、考えることで、音楽の授業がどのように ESD 教育に関連していくことができるのかが見えてきた。今年度は特に、鑑賞の領域において ESD 教育の実践を行うこととした。現行の音楽科の学習指導要領の目標にはすでに、

- B 鑑賞 (1) イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連づけて理解して、鑑賞すること。
- ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。

と、ESD の観点が盛り込まれたものが示されている。この目標に基づいた実践を行うことにより、ESD の考え方に沿った授業を行っていくことができると考えた。持続可能な社会づくりの構成概念の「I 多様性」に関わる、国際理解や文化理解の視点で授業を構築し、我が国の音楽や世界の音楽事情を知ることで、なぜこのような音楽が発展してきたのか、なぜこのような歌い方が好まれてきたのか、など様々な背景を持つ音楽の価値を尊重する態度を身に付けさせたい。また、「VI 責任性」に関わり、持続可能な社会を構築するために、自分たち一人ひとりができることを考え、進んで行動できるように導く授業が必要であると考えた。そのためにも、なぜ今このことについて学んでいるのかという問いを教師側が常に持ち、生徒に問いかけ、共に持続可能な開発のための教育につながる授業を構築していきたい。

2. ESD と学習目標

(1) 音楽科で特に重視したい「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」

音楽科においては、上記 1 に従って授業を考えていく中で、ESD の視点に立った学習視点で重視する能力・態度のうち、特に、「③多面的、総合的に考える力」「④コミュニケーションを行う力」「⑥つながりを尊重する態度」「⑦進んで参加する態度」を重視し、それぞれの能力・態度の中で、音楽科が担うことができる部分を以下のように考えた。

- ③多面的、総合的に考える力…オペラや歌舞伎といった総合芸術をそれぞれのよさを考えながら比較したり、文化や歴史、他の芸術との関連性を見い出しながら味わうことができる力。
- ④コミュニケーションを行う力…楽曲に対する自分の思いや考えを相手に伝えるとともに、他者の思いや考えも尊重し、共感する力。
- ⑥つながりを尊重する態度…伝統音楽がかけ離れた世界のものではなく、自分や地域とどのように関わっているのかに関心を持ち、尊重しようとする態度。
- ⑦進んで参加する態度…伝統音楽を継承するために、自分がどのように関わっていけるかを見い出し、積極的に行動する態度。

(2) ESD に関する音楽科の目標と評価規準、思考力・判断力・表現力との関連について

今年度は研究部の方針として、「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」のうち、特に①～④と教科の思考力・判断力・表現力との関連性を考えることになっている。そこで、前述の音楽科で重視したい能力・態度③④⑥⑦のうち、特に、③④と関連性が深いと思われる評価規準表の記述を抜き出してみた。

③多面的・総合的に考える力…音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。

④コミュニケーションを行う力…音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。

③④どちらも第2学年及び第3学年の鑑賞の評価規準からの抜粋である。④のコミュニケーションを行う力に関しては、音楽を形づくっている要素や構造と曲想といった様々なことに関心をもつことでより詳しく自分の思いや考えを相手にわかりやすく伝えることができたり、相手の思いや考えを共感する手助けとなると考えた。これまで、鑑賞における思考力・判断力・表現力等の評価は「音楽への関心・意欲・態度」及び「鑑賞の能力」の両観点で評価を行ってきた。ESD の視点で音楽科の目標を捉えてみてもどちらも思考力・判断力・表現力を培っていくことに大きく関わっていると考えられる。

3. 学習内容とつながり

今年度は1. の「ESD の取り組みにあたって」でも記述したように、国際理解や文化理解の視点で授業を構築し、鑑賞の領域において ESD 教育の実践を行うこととした。西洋の総合芸術であるオペラと日本の総合芸術の歌舞伎を題材に、社会科や国語科との内容的な「つながり」、地域、国、世界との空間的な「つながり」、過去と現在の時間的な「つながり」を目指して実践検証を行った。また、教材の「つながり」だけでなく、学習したことを一番身近な社会である家族に紹介することで多様な立場の人や世代ともつながっていけるような授業を目指した。

4. 実践例

(1) 1年生 「民謡に親しもう」

構成概念…「I 多様性」

日本全国には様々な民謡があることを知り、声の音色や合いの手の有無、拍節の有無、旋律の動き、コブシなど、それぞれの民謡の特徴を知覚・感受し、曲ができた背景と関わらせて、鑑賞する。

能力・態度…「③多面的・総合的に考える力」「⑥つながりを尊重する態度」

- ・声の音色や拍節の有無、旋律の動き、コブシなどを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の多様性を理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞する力。
- ・民謡が、自分や地域とどのように関わっているのかに関心を持ち、尊重しようとする態度。

音楽科としてつきたい力（思考力・判断力・表現力）…鑑賞の能力

- ・声の音色や拍節の有無、旋律の動き、コブシなどを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、民謡を形づくっている要素や背景とのかかわりを感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明するなどして、民謡のよさや美しさを味わって鑑賞する力。

〈授業の流れ〉

- 1 時目は、日本各地の民謡を聴き、音楽の要素（声の音色、速度、拍節など）を知覚・感受した。

2時目は仕事と関わりのある民謡「ソーラン節」と「南部牛追い歌」を聴き比べて、音楽と労働との関わりを知覚・感受したあと、石川県を代表する民謡の一つである「山中節」の特徴を考え、日本の民謡について自分の考えをまとめた。次に示すワークシートは2時目のワークシートである。

A
♪ 2つの民謡の特徴を参考に、山中節の特徴を考え、民謡のよさについて考えてみよう

	山中節（石川県）
歌詞	ハーアーアー 忘れしゃんすな 山中道を 東や松山 西や薬師
歌っている人数	1人
合いの手の有無	無し
拍節の有無	有り
曲の背景	出かせぎに行っていた 人達が石川県に帰って きて、温泉につかりながら はかさんでいた

歌っている人数や拍節の有無、合いの手など、様々なこと
と関わらせてそれぞれの特徴をまとめてみよう

日本の民謡は、
八木節様式と追分様式が
あって、どちらも仕事
のときに歌われていたもの
が多い。八木節様式は合
の手があって、ソーラン節
のようにわりと
多人数で楽しく仕事
にも役立てて歌われて
いたものかあっていい
と思った。そして、追
分様式は1人でのんび
りと拍節がなく歌わ
れていたものかあって
いいと思った。それで、
特徴は全然違うけど、
当時の人達の心情とか
が拍子や歌詞にあらわ
れているところから
伝わってくる感じが
日本の民謡のよいところ
だと思った。そして、
文化の伝承などにも
なっているのだと思う。

つな
が
り
を
尊
重
す
る
態
度

多
面
的
、
総
合
的
に
考
え
る
力

B
③ 多
面
的
、
総
合
的
に
考
え
る
力

⑥ つ
な
が
り
を
尊
重
す
る
態
度

日本の民謡は、
日常では 中々 聴けず
聞くことも少ないけれど、
今回色々な県の民謡を聞
いて、民謡がとて深いの
だと学べた。それぞれの地
域にあった 場合に合った
ものであったと思う。共通す
る点もそれぞれ異なっている
点も みていてとても興
味あった。それと、どの民
謡を聞いても和風を感じ
が伝わってきた感じが
今回の授業を通して、少し民謡につ
いて日常生活で意識してみたい
と思った。

日本の民謡は、しずかなものも
あれば、リズムが強いものも
あってポップなどとは違った
良さがある。僕は香川
県の金毘羅船の「スミ
カシ」が好きだ。
民謡は昔からあって歌
謡には色々な意味や思
いがこめられて、僕
の住んでいる所の民謡を
調べてみたい。できたらみんな
で民謡を演奏したい。歌
いしてみたい。

Aの生徒は民謡の二つのタイプの八木節様式と追分様式のそれぞれの特徴を捉え、それらが当時の仕事や生活と密接に関わってその地域の民謡となっているところや、拍節や合いの手、歌詞などから、当時の様子をうかがえるところが日本の民謡のよさであるとまとめている。また、Bの生徒二人は民謡の学習を通して、自分の住んでいる地域の民謡に興味を持ったり、日常生活で民謡を意識したいという思いを抱いている。それぞれの文章から、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の「③多面的・総合的に考える力」「⑥つながりを尊重する態度」に関わる記述が見られた。

●その他の生徒のまとめから

・日本の民謡は「音楽のもと」になっているみたいな感じでした。人の息を合わせて協力するためだったり、自分が落ち着くために使ったりと、民謡はいろいろな場面で作られているとわかりました。この「音」として残っている民謡をこれからも受け継いでいこうと思いました。

民謡は地域らしさを表しているから、自分でも自分の町の民謡を唄ってみたい。民謡は何か「あたたかい」感じがした。

・日本の民謡は状況に合わせた速さでその土地の良いところ、人々の様子を歌ったもの。いろいろな様子を合いの手、拍節、歌詞から感じ取ることができる。民謡はその土地その土地の歴史であるとも言えると思った。

・拍節や合いの手の有無によって印象がガラッと変わる。歌詞の一つ一つに意味があって思いがこもっているし、歌詞と旋律とでその時の状況が思い浮かぶ。民謡で特徴的なコブシからは、力強さを感じられるし、伴奏楽器も伝統的な日本のものだ。地域の文化・伝統を伝えることができる民謡はとても大切なものだ。



〈成果と課題〉

1年生の民謡の授業実践では、日本各地の民謡を聴き比べることで、それぞれの民謡のよさを味わうことができ（構成概念の「Ⅰ多様性」）、民謡の多様性を理解して、解釈したり価値を考えたり（能力・態度の「③多面的・総合的に考える力」）、民謡が、自分や地域とどのように関わっているのかに関心を持ち、尊重しようとする態度（能力・態度の「⑥つながりを尊重する態度」）にせまることができた。また、石川県在住の民謡歌手の方をゲストティーチャーに招き、実際に生徒の前で唄っていただき、自分たちも民謡と一緒に唄うことで、合唱の際の発声と比べたり、コブシの難しさなどを味わい、なぜ民謡がそれぞれの地域で唄い継がれてきたのか、人々が大切にしてきた理由を考える貴重な時間となった。

この授業では、民謡の背景を考える際に、その地域の特徴や労働形態などと大きく関わらせた。「ソーラン節」では、北海道の知識やにしん漁の様子、「南部牛追い唄」では、岩手県の知識や牛を使って遠くまで荷物を運んでいたことなど、社会科の地理・歴史と関わらせて授業を進めた。中には社会の授業で習った単語を用いて説明する生徒も見られ、教科間の「つながり」を感じることができた。また、民謡の背景を知った上で、「ソーラン節」を体で表現する体育の授業とのつながりも考えられる。

（2）2年生「歌舞伎のよさや美しさを味わい、その魅力を伝えよう」

構成概念…「Ⅰ多様性」「Ⅵ責任性」

総合芸術という捉えで、西洋のオペラと日本の歌舞伎のそれぞれのよさを味わい、それらの文化を継承していくために自分たちに何ができるかを考え、鑑賞する。

能力・態度…「③多面的・総合的に考える力」「④コミュニケーションを行う力」「⑦進んで参加する態度」

- ・オペラや歌舞伎といった総合芸術をそれぞれのよさを考えながら比較したり、文化や歴史、他の芸術との関連性を見い出しながら味わうことができる力。
- ・オペラや歌舞伎に対する自分の思いや考えを相手に伝えとともに、他者の思いや考えも尊重し、共感する力。
- ・オペラや歌舞伎を継承するために、自分がどのように関わっていけるかを見い出し、積極的に行動する態度。

音楽科としてつきたい力（思考力・判断力・表現力）…鑑賞の能力

- ・オペラや歌舞伎を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、様々な文化や音楽の特徴から音楽の多様性を理解して解釈したり価値を考えたりし、鑑賞する力。

〈授業の流れ〉

まずオペラは音楽以外にも、文学・美術・舞踊などの様々な要素から成り立つ総合芸術であることを押さえ、オーケストラの演奏スタイルや、声域と役柄の関係などにも関心をもてるようにした。次に歌舞伎を鑑賞し、総合芸術であることに気付く、オペラと比較することでそれぞれのよさを味わった。日本の伝統音楽の一つである歌舞伎のよさや魅力を、音楽の要素と関わらせて家族に紹介し、感想をもらった。

♪歌舞伎「勸進帳」の魅力を伝える紹介文を書きましょう

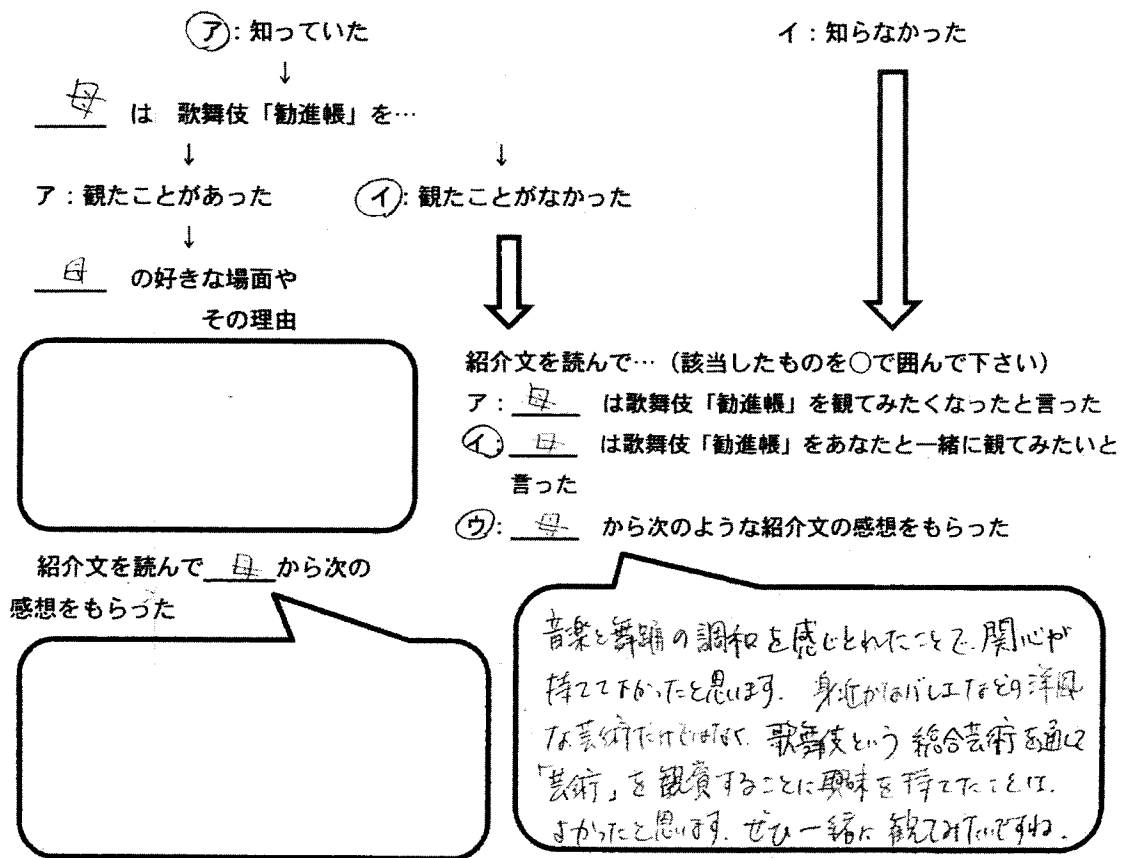
条件1. 自分の好きな場面について触れて書きましょう

条件2. 歌舞伎について自分はどんな感想をもったかを理由を含めて書きましょう

条件3. 歌舞伎「勸進帳」を観たことがない人が「勸進帳」に興味をもてるように書きましょう

歌舞伎は、舞踊、音楽、などからなる総合芸術です。これから勸進帳の鬼太夫と私の好きな場面について説明します。まず、私の好きな場面は、弁慶が義経におびる場面です。重々しい雰囲気を出すために三味線と唄だけで音楽が成り立っているが、とてもマツキしています。とても鬼太夫の好きな場面です。私はこの場面をみて、悲しい場面だけれど悲しいけれど、何故鬼太夫が泣いているのかと不思議に思いました。それは、音楽が三味線に成り立っているのがマツキしているからです。「勸進帳」の中で、鬼太夫の好きな場面、最後の船場です。私はこの「おびる場面」が一番鬼太夫の好きな場面だと思います。

紹介した家族 母 (例: 父) 母 は 歌舞伎「勸進帳」を…



この生徒は、弁慶が義経におびる場面のことについて触れ、歌舞伎の魅力を説明している。「重々しい雰囲気を出すために三味線と唄だけで音楽が成り立っている」と説明しているが、鼓や能管を使わなかった理由や、三味線と唄がどのように演奏することで重々しい雰囲気を出していたのか、音色や速度について触れて説明できるとさらによかった。

♪歌舞伎「勧進帳」の魅力を伝える紹介文を書きましょう

④

コミュニケーションを行う力

条件1. 自分の好きな場面について触れて書きましょう

条件2. 歌舞伎について自分はどんな感想をもったかを理由を含めて書きましょう

条件3. 歌舞伎「勧進帳」を観たことがない人が「勧進帳」に興味をもてるように書きましょう

私の好きな場面は富樫が1回升慶を関所に入れようとしたものの義経がいることがバレてもう1回呼びとめられ詰め寄られる場面です。ここではいまでもゆっくりと語り、演奏しているのにものすごく、はやくなっていて、升慶の話し方も言葉と言葉の間が詰まったり、升慶の義経を関所に通すという強い思いと義経への升慶のうやうやしいが、役者さんの話し方、楽器の仕方、歌の歌い方など、たぐいさんのことが組み合わさってうまく表現されていると思ったからです。歌舞伎というのは、たぐいさんの役割をもった人達の技術などが合わさって成り立つことで、見る人にも伝わるものになるのだと思いました。歌舞伎というのは本当に日本らしい美しさや、雄大な感じがすると思います。

紹介した家族 母 (例: 父)

母 は 歌舞伎「勧進帳」を…

ア: 知っていた

イ: 知らなかった

_____ は 歌舞伎「勧進帳」を…

ア: 観たことがあった

イ: 観たことがなかった

_____ の好きな場面や
その理由

_____ の好きな場面や
その理由

紹介文を読んで… (該当したものを○で囲んで下さい)

ア: 母 は歌舞伎「勧進帳」を観てみたくなったと言った

イ: 母 は歌舞伎「勧進帳」をあなたと一緒に観てみたいと言った

ウ: 母 から次のような紹介文の感想をもらった

紹介文を読んで _____ から次の
感想をもらった

_____ から次の
感想をもらった

わかりやすい説明だったおかげで、
難しいので観てみたかった歌舞
伎を観てみたくなりました。歌舞
伎というのは、守っていかなくてはならぬ、
日本の文化なのだと感じました。

この生徒は、義経一行と富樫が詰め寄る場面に触れ、歌舞伎の魅力を説明している。楽器や唄の音色、速度、テクスチャについて書いているが、どのように演奏されていたかについても書けるとさらによかった。

この実践は、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の「④コミュニケーションを行う力」を意識して行った。また、伝統音楽を家族という一番身近で小さな社会に広げるという見方では「⑦進んで参加する態度」にもつながっていると考えられる。

オペラと歌舞伎を学習した後、それぞれのよさをまとめ、復習し、「音楽の授業で鑑賞する意味や役割は何か」について考える時間を作った。

日本の伝統的な音楽や芸術を鑑賞することによって、日本の文化を守ることができるし、外国のものを鑑賞することによって、他の国のことをより知ることができます。しかも、「何かを鑑賞する」ということで私は、自分の好きなものを見つけることができると思います。お母さんに紹介文を見せて感想をもらって感じたことは、大人になって知っていることがたくさんあれば感じ方も豊かになるので、最終的には人生も楽しめるようになるのでは、ということ、今のうちにいろいろ見ておきたいと思いました。

③多面的、総合的に考える力

④コミュニケーションを行う力

⑦進んで参加する態度

我が国の文化である歌舞伎や他国の文化であるオペラなどを鑑賞することで、それぞれの文化の共通点や相違点を見つけることができ、文化の良さを味わうことができる。「だから、歌舞伎やオペラを鑑賞することで、世界の文化の良さを知り、外国の文化や歴史に、関心をもつことができる」と思う。また、他国との文化の相違点から日本独自の文化の魅力・良さを知ることができる。歌舞伎などの日本の文化の存在意義、そして後世にも日本の伝統を語り継がなければ「はうない」という今の日本を支える私達の使命が改めて身生えることになる。こうに授業で学んだことで、普段あまり触れる機会がない音楽や芸術を知ること、自分の心からのタメになると思う。さらに、家族との共通の話題を得ることができるので、家族の交流もより一層深めることができることも、良いことだ」と考える。

どちらの生徒も、我が国の音楽や諸外国の音楽を鑑賞することで、それぞれのよさを知ることができ、そのことで、我が国の音楽や文化の存在意義を考えること、そして、それらを受け継いでいこうという思いにつながると述べている。また、家族に紹介したことで、「大人になって知っていることがたくさんあれば感じ方も豊かになるので人生も楽しめる」といった思いを述べていることから、まさに音楽科の目標である「音楽を愛好する心情」に大きくつながっていくと感じた。これらは、音楽の授業における鑑賞教育の必要性を大きく感じさせるものである。

〈成果と課題〉

2年生の総合芸術の授業実践では、オペラと歌舞伎のそれぞれのよさを学んだことで他国や我が国の文化について興味・関心をもつ姿が見られ（③多面的・総合的に考える力）、興味をもった場面を含めて歌舞伎を家族に紹介した（④コミュニケーションを行う力）。家族に向けての紹介文の実践は、学校の音楽の授業で学んだことにより、生徒たちが、文化の継承、発展、創造の担い手になることができることを、生徒自身、家族が実感するきっかけになったのではないかなと思う（⑦進んで参加する態度）。この授業を通して、音楽科で諸外国の音楽文化や我が国の音楽文化を学習することで、ESDの学習に大きく関わっていけることがわかった。今後もなぜ今この学習をしているのかということを常に考え、また生徒にも問いながらESDに関わった授業を構築していきたい。

〔参考文献〕：「持続可能な社会創造に貢献する能力育成のための音楽鑑賞授業実践」宮下俊也，大熊信彦，多賀秀紀

：「ESD（持続発展教育）としての音楽科教育—中学校鑑賞領域の場合—」宮下俊也，大熊信彦

：「音楽鑑賞教育における批評能力育成プログラムの開発」宮下俊也